

重点 目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標	自己評価		
					経過・達成状況	評価	次年度の課題と改善方策
I 農業の担い手を目指す学生の確保	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の学生数は98名であり定員を満たしていない。充足率は以下のとおりである。 令和7学生数：98名/120名(82%) うち1学年：57名/60名(95%) うち2学年：41名/60名(68%) ・高校訪問や進路説明会を実施し、オープンキャンパスでは新施設をPRした結果、定員以上の受験者を確保できた。 前年度比(43名)：144%(62名) ・学生の県外出身者は6名、出身校課程等多様化している。 R7在校生 農業課程35名(61%) 普通課程13名(23%) その他 9名(16%) ・昨年度の一般入試で「社会人等」の受験区分を新設し、幅広い人材に働きかけ定員確保に努めた。 応募者2名、合格者1名 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集に際し、将来の農業に必要な知識や技術を養う場であることを丁寧に説明するほか、新施設や新カリキュラム等の充実した教育環境を積極的にPRする。 ・農業の重要性や本校の教育内容を理解してもらうために、小・中・高校生など幅広い世代にPRする機会を設ける。 <p>【入校生の推移】※定員60名 ()は募集定員充足率 令和7年度 57名(95%) 水16、野16、果11、花8、畜6 令和6年度 42名(70%) 水8、野15、果7、花5、畜7 令和5年度 59名(98%) 水10、野16、果13、花8、畜12 令和4年度 45名(75%) 水13、野15、果6、花2、畜9 令和3年度 52名(87%) 水15、野13、果7、花6、畜11 令和2年度 61名(102%) 水16、野15、果12、花11、畜7 令和元年度 53名(88%) 水14、野14、果11、花6、畜13</p>	(1) 県内外の高校等連携した学生の確保	教務管理	<p>① 高校訪問の実施 県内の県立、私立、定時制・通信制高校への訪問を計画的に実施する。 〔訪問件数〕80校(のべ100校)以上</p> <p>② 進路ガイダンス等への参加 依頼のあったものには積極的に参加する。 〔訪問件数〕20校(のべ30校)以上 今年度完成した新施設、学生寮等について積極的にPRし学生確保につなげる。</p> <p>〔過去実績〕 ○令和6年度 80校(のべ130校) ○令和5年度 120校(のべ181校) ○令和4年度 96校(のべ196校)</p>			
		(2) 地域に開かれた大学校	教務管理	<p>① オープンキャンパスの開催 開催にあたっては、充実した体験内容となるよう工夫、改善を図る。また、6月中旬に開催案内を送付し周知に努める。 〔開催数・参加者数〕3回・90名以上</p> <p>〔過去実績〕 ○令和6年度 3回 90名(入校生57名) ○令和5年度 3回 78名(入校者41名) ○令和4年度 3回 74名(入校者59名)</p>			
		教務管理 各経営学科	<p>② 学校説明、学校見学等の随時対応 学校見学や各種団体による研修の場を提供するなど、要望に応じて積極的に受入をする。</p> <p>〔R6実績〕 ○入校説明個別対応 9件 ○郡山萌世高校インターシップ 受入 1校 ○独立行政法人国際協力機構(JICA) 研修受入 ○矢吹町立三神小学校施設見学 1校</p>				
研修部 各経営学科	<p>③ 矢吹町との連携 体験農園や研修などを受け入れ、本校教育内容について地域住民の理解を深める取組を行う。</p> <p>〔取組内容〕 ○J A 東西しらかわとの連携 ○町民体験農園の受入 ○公開講座の実施(卒業記念講演・家庭菜園・趣味の草花) ○町イベント・農産物直売への出展 ○町広報紙への学生生活紹介記事掲載 ○幼稚園、小学生農業体験の受入 ○矢吹経営懇話会との連携</p>						

<評価基準> A:十分達成できた(80~100%) B:おおむね達成できた(80~79%) C:あまり達成できなかった(40~59%) D:ほとんど達成できなかった(0~39%)

重点 目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標	自己評価		
					経過・達成状況	評価	次年度の課題と改善方策
I 農業の担い手を目指す学生の確保		(3) 機会を捉えた学校情報の発信	広報委員会 教務管理	<p>学校ホームページ等による情報発信 教育活動の状況や研修内容等積極的に情報を発信し、入校希望者の進路選択の一助となるよう、定期的（月2回以上）な更新と内容の充実に努める。 〔HP更新件数〕24回以上</p> <p>〔過去実績〕 令和6年度 21回 令和5年度 25回 令和4年度 32回 令和3年度 23回</p>			
		(4) 新施設紹介による訴求	広報委員会 教務管理	<p>広報資料の作成 今年度、学生寮等新施設のや今後整備されるトレーニングフィールド等の情報掲載により訴求力の高い広報資料を作成する。 ・学校案内チラシ ・学校案内ポスター ・学校要覧 1,000部作成 ・PRパンフレット作成</p>			

<評価基準> A: 十分達成できた(80~100%) B: おおむね達成できた(80~79%) C: あまり達成できなかった(40~59%) D: ほとんど達成できなかった(0~39%)

重点 目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標	自己評価		
					経過・達成状況	評価	次年度の課題と改善方策
Ⅱ 質の高い実践的 教育の提供と学習環境の 充実	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、非農家出身者が増加しており、農業の基礎学習や実習を通じて農機具の使用方法、栽培管理、飼養技術などの早期習得を図っている。 R7入校生非農家出身者数 <ul style="list-style-type: none"> : 54名/98名 (55%) うち1学年: 29名/57名 (51%) うち2学年: 25名/41名 (61%) 教育の充実を図るため、令和7年度入校生より新カリキュラムに移行した。 「英語コミュニケーション」 国際化に対応した農業者育成 「福島の農業」 非農家出身者の増加に伴い、本県農業・農村への理解を醸成する 「フォークリフト運転技能講習」 資格取得を推進するため 「スマート農業実践」 新施設の供用開始を踏まえ1単位から2単位に拡充 県内外の先進農家等の視察を実施するほか、外部有識者等を講師として招聘し、実践的な教育を行っている。 	(1) 教育内容や施設の充実	教育計画検討委員会	<p>① 新カリキュラムの実施及び評価改善</p> <p>社会の要請や学生の実態に応じて、関係団体等と連携した新カリキュラムを実施するとともに、教育内容の弾力的な改善を図る。</p> <p>② 施設・設備の充実</p> <p>新施設を有効に活用した教育の充実を図る。また、より高度な教育の実践に必要な設備等については、計画的な導入・更新に努める。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実施状況を評価し、改善点を見直し内容を充実させる。 <p>③ 学校アンケートに基づいた講義内容の改善</p> <p>講義演習等の理解度や満足度に関するアンケートを学生、保護者、職員を対象に実施し、内容の把握・改善に努める。</p> <p>【実施回数】 2回 (9月・12月)</p>			
		(2) 各種免許、資格取得の推進	資格対策委員会	<p>合格率向上を目指した資格指導の実施</p> <p>指導内容の充実に努めるとともに、学生の知識・技術の定着状況に応じて、補講等の支援を随時実施する。また、農業の担い手となるために有用な資格等については、学生の希望等を踏まえて取得を支援する。</p> <p>【目標合格率】※()は前年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大型特殊免許取得率 : 95% (97.5%) ○けん引免許取得率 : 90% (92.1%) ○毒物劇物取扱者 : 10% (3.1%) ○簿記取得率 : 20% (18.2%) ○人工授精師免許 : 100% (100%) 			
		(3) 学生の主体的な取組によるGAP等の定着	GAP推進運営委員会	<p>① GAPを実践できる人材育成</p> <p>〔GAP学習〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎講座:1時限 ○実践講座:4時限 ○事例研究:2時限 ○校内模擬審査:1回 ○JGAP審査:1回 <p>〔GAP活動〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学生のJGAP指導員資格取得 ○農産物直売実習におけるPR <p>② 農場運営を通じたGAPの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定期的な農場評価の実施 ○自己点検と見直しの実施: 1回/年以上 ○学生による帳票類の記帳 			

<評価基準> A: 十分達成できた(80~100%) B: おおむね達成できた(80~79%) C: あまり達成できなかった(40~59%) D: ほとんど達成できなかった(0~39%)

重点 目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標	自己評価		
					経過・達成状況	評価	次年度の課題と改善方策
Ⅱ 質の高い実践的 教育の提供と学 習環境の充実	(4) 新施設を活用したスマート農 業の推進	スマート農業推進 委員会	① 講義や実習への導入 ○スマート農業に関するカリキュラムの拡充講座:1 課目 ○RTKシステム対応スマート農機の実習等での活 用 ○先進地事例調査または研修:1回 ○分娩監視システムの活用による分娩管理実習:9回				
			② 円滑な技術習得 スマート農業に係る技術習得のため、外部講師等を 積極的に活用しながら研修会を開催する。 〔実績〕 ○外部講師による研修会の開催 ○新施設を活用した研修会開催支援 ○職員によるスマート農業関連資格の取得				
	(5) 農業経営力の育成	直売実習 実施委員会 各経営学科	① 直売実習を通じた学生の資質向上 農業経営者（社会人）として必要とされる能力(社会 性・指導性)を養成する。 ○品目別販売計画の作成 ○農産物直売施設（アグリハウス万葉）の有効活用 ○「直売実習」開催：年6回 ○関係機関が企画するイベント等への出展 ○矢吹マルシェ他、近隣町村に所在する施設におけ る販売実習の実践				
			② 経営研修等の開催 ○先進地農家留学研修（1学年） ○優れた個別経営体、農業法人等視察研修 ○経営シミュレーションの実践（卒業論文）				
	(6) 教職員の指導力の向上	教務管理 各経営学科 研修部	① 指導力向上に関する研修機会の確保 〔実施回数〕年2回以上 ○指導力向上に関する研修会の実施及び参加 ・校内研修をはじめ関係する学校への見学等 ○発達障害に関する勉強会の開催 ・専門家による勉強会への参加				
			② 高校教育に関する実態把握 公開授業、学習活動等の発表会へ参加し、高校教育 の実態を把握するとともに、大学校での学習指導に 活かす。 ○公開授業への参加 ○課題研究発表会への参加				

<評価基準> A: 十分達成できた(80~100%) B: おおむね達成できた(80~79%) C: あまり達成できなかった(40~59%) D: ほとんど達成できなかった(0~39%)

重点 目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標	自己評価		
					経過・達成状況	評価	次年度の課題と改善方策
Ⅱ 質の高い実践的 教育の提供と学 習環境の充実		(7) 地元大学等との連携推進	教務管理 各経営学科	福島大学食農学類との連携 県と福島大学食農学類との協定を踏まえ、相互の支 援、交流等による連携を推進する。 ○大学教員による講義 ○卒業論文発表会での審査・講評 ○大学校運営会議で学校運営に係わる助言 ○学生の実習等の受入による支援 ○学生間の交流			
		(8) 学生指導の改善	学生指導委員会	① 学生指導における共通理解と指導 ○定期的な学生指導委員会の開催 ○学生指導に関する情報共有 ○各学科による個別面談の実施			
				② 学生寮における生活指導と生活環境の改善 ○学生寮の巡回 ○学生寮規定の厳守 ○自治会、寮自治会との意見交換の実施			

<評価基準> A: 十分達成できた(80~100%) B: おおむね達成できた(80~79%) C: あまり達成できなかった(40~59%) D: ほとんど達成できなかった(0~39%)

重点 目標	現状と課題	評価項目	主担当	具体的方策及び評価指標	自己評価		
					経過・達成状況	評価	次年度の課題と改善方策
Ⅲ 本県農業の復興を支える多様な担い手の育成	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生や保護者との定期的な面談による意向把握と就農誘導に加え、就農サポート支援員が進路指導や農業法人とのマッチング等支援している。 ・令和6年度卒業生(53名)は、開校後初めて就農率が50%を超え過去最高となった。 就職先：就農29名(55%)、農業団体等12名、他産業6名、その他6名 ・就農研修は、農業の初心者から具体的な就農準備を行う方まで、個々のニーズや習熟度に応じた段階的な学習機会を提供している。 <p><初級> 農業への関心を高める入口、基本的な知識・体験</p> <p><中級> 特定分野の実践的な技術・知識の習得</p> <p><長期> 実際の就農を見据えた、計画に基づく農業技術・経営知識の習得</p> <p>【研修受講者の推移】</p> <p>()は主催研修定員充足率</p> <p>令和6年度 509名 (85%)</p> <p>令和5年度 376名 (75%)</p> <p>令和4年度 339名 (75%)</p> <p>令和3年度 340名 (95%)</p> <p>令和2年度 329名 (88%)</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生一人ひとりの志望に応じた相談や就農講座で支援するなど、早期かつ計画的な進路教育を徹底する。 ・ハローワーク、キャリア支援機構、ふくしま生活・就職応援センターなどと連携を強化し、学生の就業意欲の向上を図る。 ・教職員の指導力向上のための研修や、大学等における学習支援の実例を学ぶ機会を設けるなど、職員の資質向上と教育の高度化を図る。 ・就農研修等において、各農林事務所や関係機関と連携し、受講生の募集をする。また、研修受講者の情報を共有し、研修ニーズの把握し、多様な担い手の確保を図る。 	(1) 本県農業の復興を担う新規就農者の育成と進路指導の強化	進路対策委員会	<p>農林事務所や福島県農業経営・就農支援センター等との連携による適切な就農情報の提供と進路指導対策の強化</p> <p>○進路確定率：100%</p> <p>○就農者率：45%</p> <p>○「就農予定学生と就農支援担当者との懇談会」の開催：2回</p> <p>○模擬面接指導等：延べ150回</p>			
		(2) 農業関連産業に関する情報収集の強化	進路対策委員会	<p>農業関連産業を含む企業等情報の収集と学生の就職活動の意欲の高揚</p> <p>○企業訪問・インターンシップ参加：延べ30人</p> <p>○企業情報等の収集と提供：延べ50回</p> <p>○企業説明会等への参加：延べ50人</p>			
		(3) ハローワーク等、就活支援専門家集団との連携強化	進路対策委員会	<p>1学年からのきめ細やかな社会教育と進路指導による学生の就業意識の定着</p> <p>○専門家集団による講座の実施：11回</p> <p>○ハローワーク、キャリア支援機構、ふくしま生活・就職応援センターとの連携</p> <p>○進路希望調査(1学年)：1回</p>			
		(4) 農業者等のニーズに応じた研修プログラムの提供	研修計画検討委員会	<p>① 農林事務所や関係機関との連携による研修ニーズの把握と研修計画への反映</p> <p>○研修計画検討委員会の開催：2回</p> <p>○研修計画検討会議の開催：1回</p> <p>○農林事務所との連携：通年</p> <p>○主催研修充足率：80%以上</p>			
		研修部	<p>② 研修受講後の効果・成果の把握</p> <p>○受講後のアンケート調査実施(全研修)</p> <p>○関係機関等との連携による成果把握(就農状況、商品開発等)</p>				

<評価基準>A:十分達成できた(80~100%)B:おおむね達成できた(80~79%)C:あまり達成できなかった(40~59%)D:ほとんど達成できなかった(0~39%)